東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 8 月 21 日

断食の徳

親愛なるムスリムの皆様。今日のフトバでは、ラマダーン月と断食の徳を説いているハディースの一部を紹介します。預言者ムハンマド（彼の上に祝福と平安あれ）は次のようにおっしゃられました。

誰であれ、その徳を信じつつ、対価をアッラーから求めつつ、ラマダーン月の断食を行えば、過去の罪は赦される。

断食とは一つの盾である。断食中の人は悪い言葉を口にするべきではない。無明時代に行なわれた行為をとってはいけない。もし誰かが本人と喧嘩をしようとしたり、論争をしようとしたりしかけてきた場合には、その人に二度、「私は断食中です。」と言う。その御手に私の自我をもたれるお方アッラーに誓って言うが、断食をしている人の口臭は、崇高なるアッラーの位階においては麝香の香りよりもなお芳しい。崇高なるアッラーは言われた。「断食を行う者は、私の為に食べること、飲むこと、性的欲望を放棄する。断食は直接的に私の為に行われるイバーダである。その報奨も直接私が与えよう。他の善行の１０倍として与えられる。」

天国にはアル・ライヤーンという扉がある。審判の日その扉からは、断食をしていた人のみが入る。

イフタールの時間ごとに、アッラーが地獄を免除される人々がいる。これは毎晩続く。

誰であれ、嘘をつくこと、偽りを伴って行動することを放棄しないのであれば、その人が飲み食いを放棄することにアッラーは一切必要性をお持ちではない。

正当な理由がなく、ラマダーン月の一日に断食を行わなかった人が、その代わりとして一年を通して断食したとしても、ラマダーン月のその一日の善行を手にすることはできない。

ラマダーン月が来ると天国の扉が開かれる。地獄の扉は閉じられ、シャイターンは鎖につながれる。

アッラーの道において一日断食を行う者の顔をアッラーは７０年時刻から遠ざける。

エブ・ウマーマは伝承している。「私はアッラーの使徒を訪ね、申し上げた。『アッラーの使徒よ、アッラーがそれによって私を益して下さるような行為を私に命じてください。』預言者は次のようにおっしゃられた。『断食を行いなさい。なぜなら断食に匹敵するようなものは何もないからだ。』私はこれを三度訪ねたが、三度とも同じ答えを返された。」

アッラーが私たちの行なう断食を認めてくださいますように。断食のおかげで自分たちを最良の形で鍛錬できるしもべとしてくださいますように。